

組合員と共に取り組むエシカル消費につながる活動

エシカル消費とは、地域や社会、環境や人々に配慮した消費行動で、生協では私と誰かの笑顔につながるお買い物と考えています。

エシカルキャンペーン

「コープおかやま牛・豚・若鶏」や「生協牛乳・低脂肪牛乳」は代表的な地産地消商品です。これらの商品利用は、循環型農業の応援や、食料自給率の向上、フードマイレージの削減にもつながります。

商品の利用だけでなく、マイバッグの使用や食べ残しを出さない、などふだんのくらしの中でエシカルについて考えてみましょう。



里海再生・棚田保全につながる取り組み

日生町、邑久町、笠岡市の県内3カ所で、漁協や行政、研究者などと協力して豊かな海再生のためアマモ場の再生事業をすすめています。また、久米南町では棚田保全の取り組みも応援しています。



「おかやま育ち」商品の利用で1点につき0.2円を積み立て、こうした取り組みや地域社会づくりのために活用しています。



もずく商品の中で、このマークのついた商品の利用1点につき宅配では2円、店舗では1円を積み立て、沖縄恩納村でのサンゴ礁再生事業を応援しています。



「海の草原」アマモ場



久米南町の棚田

リサイクル活動の推進はCO₂の排出量削減につながります

宅配では紙飲料パック・商品カタログ・内袋・たまごパックを回収しています。店舗では紙飲料パック・ペットボトル・発泡トレイ・透明容器を回収しています。回収された紙飲料パックなどはコープCSネットエコセンターに集められ、その後、コアノンロール等の原料に活用しています。



コープCSネットエコセンター(尾道市)



エコトレ商品や
ノントレ商品の利用を
促進しています。



省資源化、食品ロス削減、ごみ減量につながる取り組み

eふれんずの活用(コープアプリ活用)は、カタログ配布の削減(紙の削減)につながります。値引き商品の利用は食品ロス削減に、ノントレ商品の利用はごみの減量につながります。マイバッグ持参を推進しています。(現在9割まで到達しており、引き続き目標超過を維持します。)



レンタルカゴ



おかやまコープは「2030年に向けたおかやまコープの環境・サステナビリティ政策」を通じてSDGsの実現に貢献します



私たちの消費活動をSDGsの実現につなげ、そして未来の子どもたちに豊かな地球を残しましょう!!

2015年9月国連において、「今、貧困や飢餓の廃絶、地球環境の保全などの国際社会が協力して2030年までに達成を目指す全世界が取り組むべき課題」として採択された目標です。



2030年に向けた おかやまコープの

環境・サステナビリティ政策



この政策は

「すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を
未来の子どもたちへ手渡せるように」

全国の生協で推進する2030年までの政策にそって、
おかやまコープでの計画をまとめたものです。

全国の生協で目指す10の行動指針を

1. エシカル消費の取り組み
2. 気候変動対策の取り組み
3. 省資源、資源循環の取り組み
4. 生物多様性保全推進と新たな協働の取り組み
5. 情報公開と対話の取り組み

に構成し、「事業や活動」、「私たち一人ひとりのくらしの見直し」と
「さまざまなステークホルダーとの協働」の分野で具体化し
2030年までの取り組みと目標を定めたものです。



1 エシカル消費の取り組み

エシカル消費につながる商品の普及や重要性を伝えることで、エシカル消費に共感できる消費者を増やしていきます。また、人権や環境に配慮した「責任ある調達」を日本生活協同組合連合会やコープ中国四国事業連合と協力してすすめます。

- エシカル消費の普及に向けたさまざまな取り組みの推進
- 「コープおかやま牛・豚・若鶏」や「生協牛乳」等、地産地消商品の普及によりエシカル消費を推進

2030年目標

- 温室効果ガス排出量の削減目標「2013年比58%」
- 営業車をハイブリッド車または電気自動車へ計画的に切り替え(20台)

2 気候変動対策の取り組み

生協事業と組合員の生活における温室効果ガス排出の削減に取り組み、再生可能エネルギー(以下、再エネ)の導入量も増やしていきます。

- 全ての事業施設で再エネ電力(※1)利用、照明のLED化
- 太陽光発電設備は9事業所に設置し自家消費と再エネ事業者に売電先を切り替え
- 店舗の冷凍・冷蔵設備の省エネ化
- 地産地消推進でフードマイレージ(※2)削減
- 営業車をハイブリッド車または電気自動車へ計画的に切り替え

2030年目標

- 宅配・店舗のノントレー商品導入率8割
- 店舗のエコトレ商品導入率5割
- マイバッグ持参率9割
- 宅配カタログ3割削減
- 食品廃棄物は2018年度比で50%削減

3 省資源・資源循環の取り組み

生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙の削減、持続可能な原材料への切り替えをすすめます。また、生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進し、生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減もすすめます。

- 植物性由来素材50%のレジ袋へ切り替え、レンタルかご取り扱いスタート
- 宅配、店舗でのリサイクル推進と、ノントレー(※3)商品の拡大、店舗でのエコトレ(※4)商品の拡大
- 食品廃棄物活用によるバイオマス発電への参加検討

- フードバンク(※5)への協力、店舗での廃棄ロス削減、食品のリサイクルやごみ減量の推進
- 宅配のeふれんず(※6)利用者増で紙の削減、内袋の材質変更を検討

政策で実現する5つの取り組み



生協の事業や活動で最も期待される役割

ともに学び行動できる仲間を増やす

4 生物多様性保全推進や新たな協働の取り組み

組合員と共に環境保全活動の推進と、自然共生社会の実現を目指し、新たな協働の取り組みにもチャレンジします。

- リサイクルやごみ減量・プラスチック問題などの学習、自然観察やグリーンカーテンコンテストなど、組合員活動を通じた環境に関わる取り組みの推進
- おかやま環境ネットワーク(※7)と連携した企画や職員向けの学習会開催による意識向上
- 里海再生事業、棚田を守る取り組み、サンゴ礁再生事業の継続
- 協同組合間の連携は新たな取り組みの可能性を追求

さまざまなステークホルダーとの対話と情報開示

5 情報公開と対話の取り組み

生協の「環境・サステナビリティ」の取り組みは、組織内だけでなく、広く社会の方々に知っていただくために、積極的に情報を公開、発信します。また、社会との対話もすすめていきます。

- 広報紙やSNS等、各種の広報ツールを活用して取り組みを広く社会に発信

用語説明

- ※1 再エネ電力:おかやまコープでは、林地残材や製材端材を活用した真庭市の完全再生エネルギー発電施設の「真庭バイオマス発電」と、再生可能エネルギーの調達・供給を中心とした日本生協連の子会社である「地球クラブ」から電力供給を受けています
- ※2 フードマイレージ:食料の輸送距離などを表し、少ない方がCO₂の削減につながります
- ※3 ノントレー:食品パッケージにトレーを使わず、袋詰めなどにすること
- ※4 エコトレ:回収した食品トレーをリサイクルして製造したトレーで、新しく作るトレーと比較しCO₂の排出量を30%抑えることができます
- ※5 フードバンク:賞味期限内ではあるが、さまざまな理由により捨ててしまう食べ物を寄付し、その食品を困窮者へ無償で提供する活動です
- ※6 eふれんず:パソコンやスマートフォンを使ってインターネットで宅配の注文ができるツールです
- ※7 おかやま環境ネットワーク:おかやまコープの環境分野での社会貢献の一環として企業、個人、団体に呼び掛け発足した組織です